内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野

教室の特色

腎臓内科学では、腎臓が尿の生成をするために濾過、再吸収、分泌、濃縮し、成人糸球体濾過1日あたり100ml/分（glomerular filtration rate：GFR）×1440分（1日）=144Lを原尿から99%の水分を再吸収し、最終的に尿として排泄されるのは1.5Lであり、水電解質の調節、ホルモン分泌、血圧維持に関与するなど、高分化に発達した臓器を主に研究しています。腎臓は、ネフロンという微小血管と糸球体、尿細管から構成され、小さな塊が左右腎臓で合わせて200～300万個あります。腎炎、ネフローゼ症候群など腎生検が必要な腎疾患から、高血圧、糖尿病、遺伝性疾患（主に多発性嚢胞腎）、水電解質異常、膠原病、血液疾患、循環器疾患など、診断・治療には内科学全般に携わる疾患の知識が必要です。近年、慢性腎臓病（chronic kidney disease：CKD）という概念が世界的に提唱され、日本の成人人口におけるCKD患者数は、CKDの定義をGFR60ml/分/1.73㎡未満として約13%程度と推測され、末期腎不全による透析患者が増加しており、医療経済上も大きな問題となっています。CKDの発症には糖尿病などの生活習慣病による動脈硬化が関与し、心血管疾患、入院および死亡の危険性が高く、国民の健康を脅かすことになります。当分野では、CKD進行抑制を目指すことを理念とした専門性の高い診療、教室員自らが腎病理診断・治療に携わり、腎代替療法の血液透析・血液濾過透析と、ベネフィットを生かせる腹膜透析に加えて、多種多様な特殊血液浄化療法であるLCAP、GCAP、LDLアフェレシスや血漿交換など、他では学べない疾患や高度な医療も多く学ぶことが可能です。

高血圧内分泌内科学では、本態性高血圧症、二次性高血圧症（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの内分泌性高血圧症）、妊娠高血圧症候群、悪性高血圧症、下垂体疾患（先端巨大症、プロラクチノーマ、クッシング病、下垂体機能低下症、尿崩症など）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍など）、副甲状腺疾患（原発性副甲状腺機能亢進症など）、Ca代謝異常（高Ca血症、低Ca血症）、副腎疾患（副腎腫瘍、アジソン病など）、性腺疾患を主に診察しています。ストレス社会で増加している脂質異常症（高コレステロール血症、高脂血症、低HDL血症）、メタボリックシンドローム、高尿酸血症、肥満症（体内時計遺伝子異常など）、摂食異常症（神経性食欲不振症、過食症）の診療も取り組んでいます。

腎臓・高血圧・内分泌内科学分野としては、各々の専門性を融合できることが大きな特徴（図1）です。大学での活動は、隣接する附属板橋病院内の外来、病棟、透析室及び研究室の4部門になります。2016年5月より当科准教授であられました阿部雅紀先生が主任教授に就任されました。

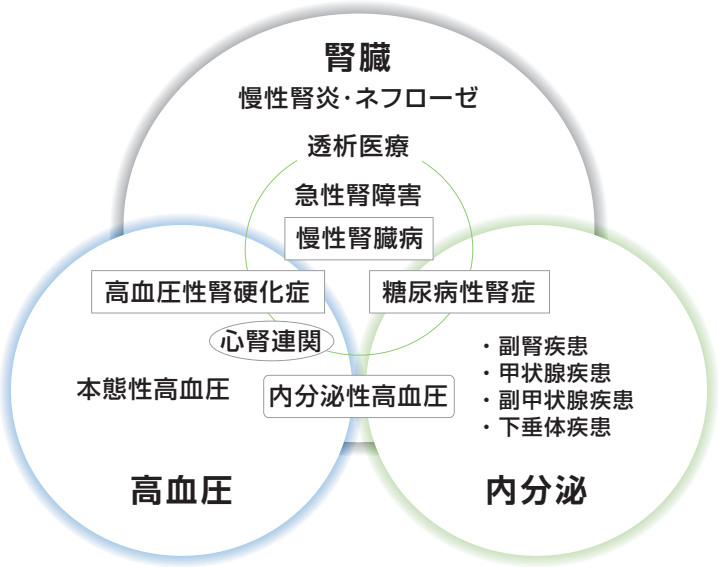

図１　当教室における各々の専門性を取り入れたベン図

新たな船出にて活気に満ちた若手有望医師の育成に励んでおります。今後も臨床に還元し得る基礎及び臨床研究に積極的に取り組んで参り、更なる向上を目指しつつ、同時に地域に根付き良き医療を提供して参ります。また、個々のライフスタイルに合わせた環境を構築できるように、収入の確保や女性医師の子育てに対する全面支援など教室内で協力し合える範囲内で生活面サポートにも取り組んでいます。教室の更なる発展を期して、私共と一緒に創り上げる同志の方を心よりお待ちしております。

教室の紹介

腎臓・高血圧・内分泌内科学分野　主要スタッフ　（2023年4月）

部長	阿部　雅紀（主任教授）
科長	丸山　高史（准教授）
外来医長	吉田　好徳（助教）
病棟医長	逸見聖一朗（助教）
透析室室長	阿部　雅紀（主任教授）
救急担当医長	北井　真貴（助教）
教育医長	高島　弘至（助教）
医局長	丸山　高史（准教授）

臨床関係

新しい専門医制度が2015年度医師国家試験合格者から適応されることになり、2017年度から日本専門医機構が認定する専門研修プログラムが開始されます。内科専門研修は、基本的には日本内科学会専攻医の登録が必要となり、病棟と外来業務を行います。研修施設としては、日本大学医学部附属板橋病院が中心となります。内科専門研修後は、サブスペシャリティー研修として、より高度で複雑な診療も担当するようになり、また研修医への指導もより専門的なことが可能となります。病棟業務以外としては、①各種血液浄化療法の管理と治療、腹膜透析の管理と治療は症例数が増加傾向（図2）　②腎生検の施行と診断、治療　③甲状腺生検の施行と診断など、技術的な面での習得も可能となります。関連病院へ出張では、医師としての見識を深めることとなります。各自の研究室にて種々のテーマのもとに臨床あるいは基礎の研究を行います。

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
血液浄化治療（延べ件数）	6,595	6,169	6,432	6,225	5,482	4,346
血液浄化治療（新規導入件数）	185	153	164	162	200	281
腹膜透析（患者数）	34	42	45	52	49	56
腎生検（実施件数）	37	57	51	58	51	72
甲状腺生検（実施件数）	133	94	130	127	108	106
副腎静脈採血（実施件数）	27	13	8	7	6	5

図２　当科教における診療実績

病棟グループ構成は、病棟医長を先頭に、初期臨床研修医及び内科後期研修医、認定医及び指導医（通常2～3名）、4～5名で1グループの医師構成のもと腎臓・高血圧・内分泌疾患患者を受け持ちます。腎臓内科は3グループ、高血圧内分泌内科は1グループで病棟運営を行っています。分野全体の入院患者数／年は300～400症例程度で、週1回の部長回診と症例カンファレンス（写真１、2）を積極的に取り組み、研修医や専門医を目指す若手医師の討論が出来る環境となっています。

カンファレンス風景写真１

カンファレンス風景写真２

研究関係

腎臓・高血圧・内分泌内科には下記の3つの研究室があり、各々独自の研究を進めており、国内誌、国外誌に多くの論文が掲載されています。当教室出身には、臨床検査医学分野の中山智祥主任教授、細胞再生移植学分野の松本太郎主任教授が各々の分野で活躍しており、研究のコラボレーションは可能です。

腎臓病研究室（General Nephrology Research Group）
（室長：逸見聖一朗）
血液浄化研究室（Advanced Nephrology Research Group）
（室長：丸山高史）
高血圧内分泌代謝研究室（Hypertension, Endocrinology, and Metabolism Research Group）
（室長：畑中善成）

出　張

腎臓・高血圧・内分泌内科としては、基本的に1～2回の関連病院へ出張を行っています。
関連病院での業務により、幅広い範囲での臨床研修が可能となります。
出張関連病院には、板橋区医師会病院、地域医療機能推進機構横浜中央病院などがあります。

海外留学

スウェーデン、オーストラリア、カナダなどの大学とも密接な繋がりがあり留学が可能です。海外交流により、教室のレベルアップが図れますので、積極的にサポートしています。

取得可能な認定医・専門医

総合内科専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、日本内分泌学会専門医、日本動脈硬化学会専門医、日本老年病学会専門医、日本高血圧学会専門医、産業医、他

休　暇

大学規定の祭日を除き、年3週までの休暇が認められています。
また、結婚や妊娠・出産に関しては、別途休暇が認められています。
（ただし、初期臨床終了後の総合内科専門医取得までは内科学系全体の取り決めに従うこととなります。）

腎臓・高血圧・内分泌内科医局員の募集

詳細をお聞きになりたい方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先

日本大学医学部　内科学系腎臓・高血圧・内分泌内科学分野
TEL：03-3972-8111（内線 2414、2415）
FAX：03-3972-8311
医局長　丸山高史
E-mail：maruyama.takashi@nihon-u.ac.jp